

Patent Abstracts of Japan

PUBLICATION NUMBER : 2001097410
PUBLICATION DATE : 10-04-01

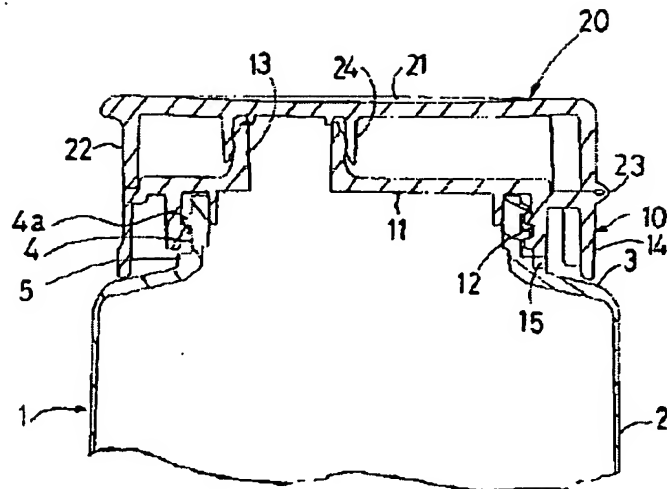
APPLICATION DATE : 30-09-99
APPLICATION NUMBER : 11279720

APPLICANT : YOSHINO KOGYOSHO CO LTD;

INVENTOR : IIZUKA SHIGEO;

INT.CL. : B65D 35/44 B65D 41/04

TITLE : SYNTHETIC RESIN TUBE CONTAINER



ABSTRACT : PROBLEM TO BE SOLVED: To make full use of a content in a tube container with a wide mouth.

SOLUTION: A neck section 4 of the male screw cylindrical shape of a synthetic resin container is stood up from the upper end of a body section 2 to be elastically compressed through a narrow width shoulder section 3 and formed of a synthetic resin tube container main body 1 with the lower end of the neck section formed into a large diameter section 5, a cap main body 10 screwed on the outer face of the neck section 4 and an auxiliary cover 20 connected with the cap main body by a thin-wall hinge 23. A pair of first and second engaging protrusions 7 and 8, one large and one small, are attached across a small clearance 6 on the outer peripheral face of the large diameter section 5, while a third engaging protrusion 15 is attached on a part of the lower end face of a first peripheral wall 12, and when the first peripheral wall 12 screwed on the outer face of the neck section 4 is clamped to the lower limit, the third protrusion 15 can override forcibly the second engaging protrusion 8 and can be fitted into the small clearance 6 formed between the third engaging protrusion and the first engaging protrusion 7.

COPYRIGHT: (C)2001,JPO

BEST AVAILABLE COPY

THIS PAGE BLANK (USPTO)

BEST AVAILABLE COPY

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開2001-97410

(P2001-97410A)

(43) 公開日 平成13年4月10日 (2001.4.10)

(51) Int.Cl.⁷

識別記号

F I

テ-マ-ト* (参考)

B 6 5 D 35/44

B 6 5 D 35/44

M 3 E 0 8 4

41/04

41/04

C

審査請求 未請求 請求項の数 1 O L (全 3 頁)

(21) 出願番号

特願平11-279720

(22) 出願日

平成11年9月30日 (1999.9.30)

(71) 出願人 000006909

株式会社吉野工業所

東京都江東区大島3丁目2番6号

(72) 発明者 野瀬 和明

東京都江東区大島3の2の6 株式会社吉

野工業所内

(72) 発明者 飯塚 茂雄

東京都江東区大島3の2の6 株式会社吉

野工業所内

(74) 代理人 100068157

弁理士 今岡 良夫 (外1名)

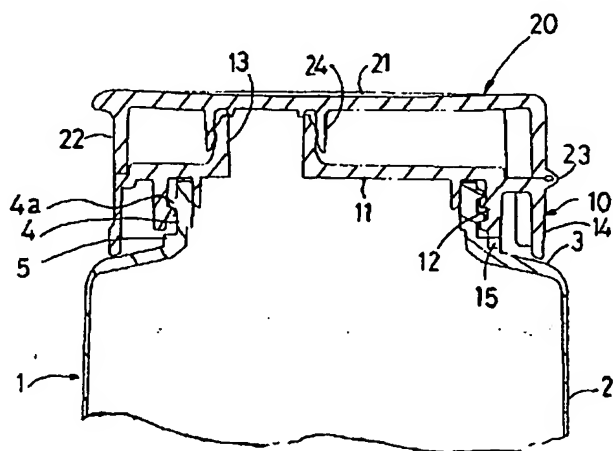
最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 合成樹脂製チューブ容器

(57) 【要約】

【課題】 広口のチューブ容器内の内容物の使い切りを可能にする。

【解決手段】 弾性圧搾可能な胴部2上端から、幅狭の肩部3を介して雄ねじ筒状の口頸部4を起立すると共に、該口頸部の下端を大径部5とした合成樹脂製のチューブ容器本体1と、口頸部4外面へ螺合させたキャップ本体10と、ノズル上端開口面を閉塞し、かつキャップ本体へ肉薄ヒンジ23で連結した補助蓋20とからなり、大径部5外周面へ、小間隙6を挟んで大小一對の第1、第2係合突部7、8を、又第1周壁12下端面一部へ第3係合突部15を、それぞれ付設し、口頸部4外面へ螺合させた第1周壁12を下限まで締め付けたとき、第3係合突部15が第2係合突部8を強制乗り越えて第1係合突部7との間に設けた小間隙6内へ嵌合可能に形成した。



BEST AVAILABLE COPY

【特許請求の範囲】

【請求項1】弾性圧搾可能な胴部2上端から、幅狭の肩部3を介して雄ねじ筒状の口頸部4を起立すると共に、該口頸部の下端を大径部5とした合成樹脂製のチューブ容器本体1と、

上記口頸部4外面へ、口頸部上端開口面を密閉するノズル13付きの第1頂壁11外周部から垂設した第1周壁12を螺合させたキャップ本体10と、

上記ノズル上端開口面を閉塞する第2頂壁21外周から、上記第1頂壁11の外周部上面へ載置させて第2周壁22を垂下し、該第2周壁の下端後部と第1頂壁11の後部とを肉薄ヒンジ23で連結した補助蓋20とからなり、

上記キャップ本体10と補助蓋20とを合成樹脂材で一体成形し、

上記口頸部下端の大径部5外周面へ、小間隙6を挟んで大小一對の第1、第2係合突部7、8を、又第1周壁12下端面一部へ第3係合突部15を、それぞれ付設し、口頸部4外面へ螺合させた第1周壁12を下限まで締め付けたとき、上記第3係合突部15が第2係合突部8を強制乗り越えて第1係合突部7との間に設けた小間隙6内へ嵌合可能に形成したことを特徴とする合成樹脂製チューブ容器。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】本発明は、胴部圧搾により内容物を注出可能な合成樹脂製チューブ容器に関する。

【0002】

【従来の技術】例えば、実開平3-38747に示すように、胴部の上端面を上板で閉塞すると共に、該上板前部に注出口を穿設したチューブ容器本体と、該チューブ容器本体の頂部に、頂壁周縁から垂下する周壁を嵌合させると共に、頂壁裏面から垂設した栓棒を注出口に嵌合させ、更に周壁の後部下端をヒンジを介して上板後部へ連結したチューブ容器が知られている。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】この種のチューブ容器では胴部を圧搾してクリーム状等の内容物を注出するため、残量が少なくなると内容物は胴部の上端部へ移動するが、この上端部には注出口を形成する上板が設けられているため、胴部を圧搾してもこの部分の体積は殆ど減少することがなく、このため胴部内の内容物を使い切ることは困難であった。本発明は、閉栓可能なノズルを有するキャップ本体を口頸部へ螺合させることにより、キャップ本体をチューブ容器本体から螺脱自在にして内容物の使い切りを可能にしようとするものである。

【0004】

【課題を解決するための手段】第1の手段として、弾性圧搾可能な胴部2上端から、幅狭の肩部3を介して雄ねじ筒状の口頸部4を起立すると共に、該口頸部の下端を

大径部5とした合成樹脂製のチューブ容器本体1と、上記口頸部4外面へ、口頸部上端開口面を密閉するノズル13付きの第1頂壁11外周部から垂設した第1周壁12を螺合させたキャップ本体10と、上記ノズル上端開口面を閉塞する第2頂壁21外周から、上記第1頂壁11の外周部上面へ載置させて第2周壁22を垂下し、該第2周壁の下端後部と第1頂壁11の後部とを肉薄ヒンジ23で連結した補助蓋20とからなり、上記キャップ本体10と補助蓋20とを合成樹脂材で一体成形し、上記口頸部下端の大径部5外周面へ、小間隙6を挟んで大小一對の第1、第2係合突部7、8を、又第1周壁12下端面一部へ第3係合突部15を、それぞれ付設し、口頸部4外面へ螺合させた第1周壁12を下限まで締め付けたとき、上記第3係合突部15が第2係合突部8を強制乗り越えて第1係合突部7との間に設けた小間隙6内へ嵌合可能に形成した。

【0005】

【発明の実施の形態】以下、本発明に係る合成樹脂製チューブ容器の実施形態を図面を参照しながら説明する。

1は合成樹脂製のチューブ容器本体で、弾性圧搾可能な胴部2上端から、広口にすべく幅狭の肩部3を介して雄ねじ4a筒状の口頸部4を起立すると共に、該口頸部の下端を大径部5とする。

【0006】この大径部外周面の後部へ、小間隙6を挟んで大小一對の第1、第2係合突部7、8を付設する。その際、大きい方の第1係合突部7を雄ねじ4aの締め付け方向側に位置させると共に、第1係合突部7の径方向の突出長さを第2係合突部8のそれよりも大にする。

【0007】10はキャップ本体で、口頸部4上端の開口面を第1頂壁11で密閉すると共に、該頂壁の外周部から雌ねじ筒状の第1周壁12を垂下して、該周壁を口頸部4へ螺合させる。また、第1頂壁11前部から筒状のノズル13を起立すると共に、第1頂壁11外周から外向きフランジを介して外筒14を垂下して、該外筒下端を肩部3の外周面上へ載置させる。さらに、第1周壁12の後部下端から第3係合突部15を突設して、これを小間隙6内へ嵌合させる。

【0008】20は補助蓋で、ノズル13の上端開口面を密閉する第2頂壁21外周から、第1頂壁11の外周部上面へ載置させて第2周壁22を垂下し、該第2周壁の下端後部と第1頂壁11の後部とを薄肉ヒンジ23で連結し、また、第2頂壁21の前部下端から垂下筒24を垂下してノズル13外面へ嵌合させる。この補助蓋20とキャップ本体10とは合成樹脂材で一体成形する。

【0009】次に本実施形態の作用について説明する。内容物を注出するには、補助蓋20を持ち上げてノズル13上端を開口させた後、胴部2を圧搾すればよい。残量が減少し、胴部を圧搾しても内容物が注出されなくなった場合には、キャップ本体10を口頸部4から螺脱させた後、チューブ容器本体1上端部の内容物をヘラや指

等で取り出せばよく、この時、全部を取り出さない場合には、キャップ本体10を再度口頸部4へ螺合させる。

【0010】その際、キャップ本体10を下限まで締め付けると、第3係合突部15が第2係合突部8を強制乗り越えて第1係合突部7との間に設けた小間隙6内へ嵌合して、それ以上の締め付けが不能になるため、薄肉ヒンジ23の位置合わせが可能になる。なお、開栓のためキャップ本体10を上記と反対方向へ回転させると、第3係合突部15が第2係合突部8を強制乗り越えて小間隙6から離脱する。

【0011】

【発明の効果】本発明は、閉栓可能なノズルを有するキャップ本体を口頸部へ螺合させたので、内容物が残り少なくなつて、胴部を圧搾しても注出されなくなった場合にはキャップ本体をチューブ容器本体から螺脱させることで内容物の使い切りが可能になる。また、キャップ本体を下限まで締め付けたとき、第3係合突部が第2係合突部を強制乗り越えて小間隙内へ嵌合可能に形成した

ので、キャップ本体の位置合わせが可能になり、これによって例えば薄肉ヒンジをチューブ容器本体の特定の印刷箇所方向へ向けることが可能になる。

【図面の簡単な説明】

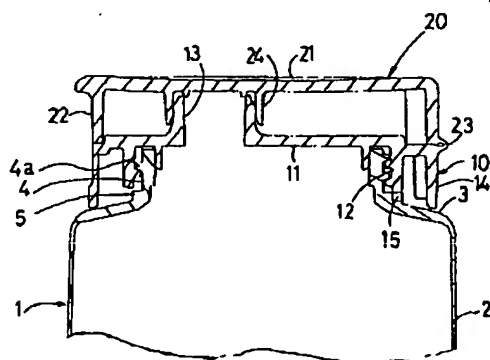
【図1】本発明に係るチューブ容器の断面図。

【図2】同じく、分解斜視図。

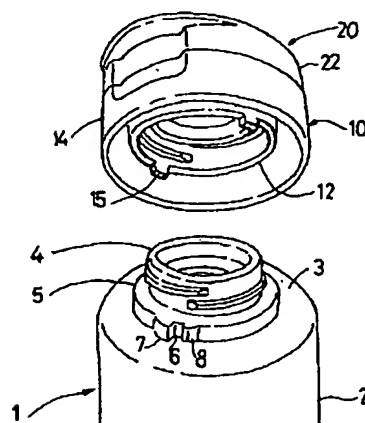
【符号の説明】

- 1 チューブ容器本体
- 2 胴部
- 3 肩部
- 4 口頸部
- 5 大径部
- 10 キャップ本体
- 11 第1頂壁
- 12 第1周壁
- 13 ノズル
- 15 第3係合突部

【図1】



【図2】



フロントページの続き

Fターム(参考) 3E084 AA03 AA12 AA24 AB06 BA03
CA01 CB02 CC03 DA01 DB12
DC03 FA03 FA09 FB01 FB08
GA04 GA06 GB04 GB06 KB10
LA17 LA18 LB02 LB07 LC01
LD01

THIS PAGE BLANK (USPTO)

BEST AVAILABLE COPY